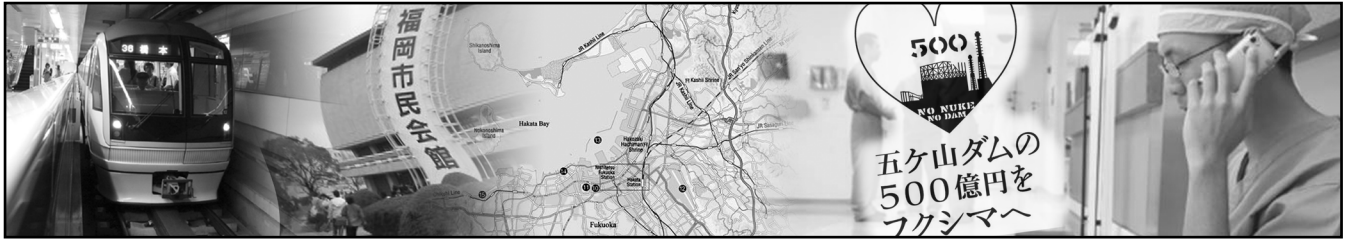


ドラゴンあらしの 一刀両断！

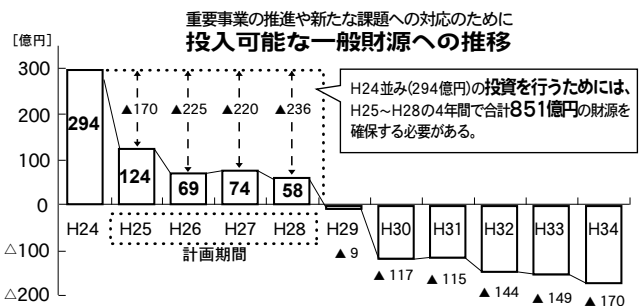
福岡市の財政と新しい基本計画



(1Pからのつづき) 厳しい財政状況が続く中で財政健全化を進めるには、これまでの事業の評価を市民とともにやり、そして今後の事業のあり方をキチンと作る必要がある。市民生活に重大な影響を与える事業については住民投票で市民の意思を問う、大型事業は「サンセット方式」や「時のアセス」のような仕組みを作る、政策決定過程に公募市民を積極的に参加させる、このような仕組みが必要である。反省もなく、見直すことなく事業を続ければ、そのツケは今の市民ばかりか将来の市民に大きな負の遺産を残すことになる。

自立した自治体運営を実現するためには、地域で循環する経済をつくる必要がある。地域経済を活性化させるために必要なことは、大きな事業ではなく、小さな事業をいかに多く生み出し地元で循環する経済にするかである。同時に、雇用を生み出すために市は率先してワークシェアリングを進めるべきだ。経済は供給サイドではなく需要を創出しなければいけない。地域に需要を生み出すために地域に雇用を作り出さなければいけない。

いつまでも経済成長神話に踊らされてはいけない。時代は変わった。福岡市政も身の丈にあった、適正規模のまちづくりをしていかななくてはならない。市役所だけの計画にせず、市政の主役者である市民が共感し、目標を共有することで、一緒にまちづくりに取り組むことが必要である。



※サンセット方式…事業や補助金、法律などにあらかじめ期限を設け、期限が来たら自動的に廃止する仕組み
※時のアセスメント…予算化されたにもかかわらず長期間着工されない事業などについて中止も含めて再評価する制度。採択後10年が過ぎても工事が継続中などの事業について、必要性、進み具合、社会情勢の変化、費用対効果などの観点で再評価する。

クリーンエナジの怪



東区蒲田のゴミ焼却場立て替えに伴い、平成17年に株式会社クリーンエナジーが作られました。ゴミ処理の余熱で発電することを目的としており、福岡市が51%、九州電力が49%出資しています。市債の削減を図るということで、市の直営ではなく、

民間の資金を活用することになったのですが、その内実を調べていくと、実は九州電力がリスクも背負わずに丸儲けでき、福岡市がそれを負担するという仕組みが隠されていることが判ってきました。

そもそも、ゴミ行政の視点から、ゴミ焼却場を無駄に多く作りすぎているという問題もあるのですが、そういった問題も含めて、詳しくは次号のあらしニュースでご報告いたします。また、私のホームページにも載せていますので、そちらもぜひご覧ください。